

Hey! R2! PiPiPiー!

第三十一話 うるう年のお話

4年に1回、夏季オリンピックの開催年の年に「閏年」となります。説によれば、「閏年」は「じゅんねん」と読むのが本来であって、日本では「潤」を「うるう」「うるむ」と読むところから「閏」の漢字にもその読みが当てられたとのことです。漢字の「閏」は、王が門の中に居ることを表す字で、中国では暦からはみ出した閏日には王が門の中にとじこもり、政務を執らないことに由来しているそうです。



第三十二話 頭の針のお話

この病院で頭へ針治療されている患者さんをよく見かけられると思います。この治療法は、山元式新頭針療法(YNSA: Yamamoto New Scalp Acupuncture)といいます。この針治療は中国式の古典的なツボや経絡に針を刺す治療法とは全く異なるものです。

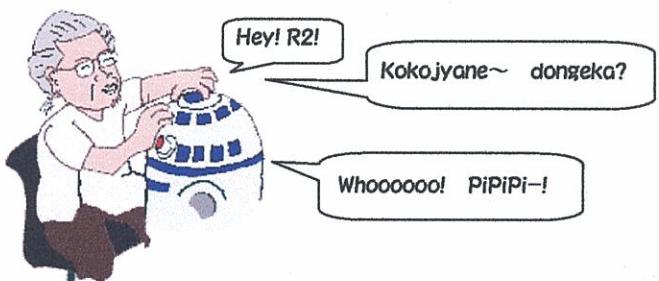
山元式新頭針療法は、1970年頃に現山元敏勝理事長によって考案された全く新しい治療法で、1973年の学会で初めて報告されました。当初、先生は患者さんの痛みに対して、中国式針治療のツボや経絡に注射で治療をされていました。その後、針治療に切り替えられ、1968年からは針治療による無痛分娩でも成功されました。地域性もあり、農業や林業または漁業で体を酷使し、腰や肩、膝などに痛みを訴えられる患者さんが多く、痛みを和らげる治療へと診療の分野を広げられました。

閏(うるう)とは、暦の上で1年の日数が普段の年(平年)よりも多いことです。太陽暦では1年が366日ある年、つまり2月29日のある年のことです。この1日の違いは太陽暦と地球の自転速度のずれで起きます。

地球は太陽の周りを1年かけて1週します。正確には365.2422日で、0.2422日の余りが出ることになります。0.2422日が4年分溜まると0.9688日とほぼ1日となるため、4年に1度365日に1日を加えた366日の年を作つて修正したのですね。その4年毎に巡ってくる年を「閏年」と名前を付けたとされています。

でも・・・どうして2月なのでしょうね。2月は他の月よりも日数が少ないし、どうなっているのでしょうか。31日まである月が7ヶ月もあるのだから、2月も30日とかにすればよかったのに・・・それは、またいずれ・・・明日のこころだ~(Y)

ある日のこと、先生が半身に麻痺のある患者さんの頭を触診されたとき、麻痺した腕にある種の感覚が生じ、わずかに腕が動く経験をされました。この経験が山元式新頭針療法を考案するきっかけとなったそうです。



先生方の治療は、首やお腹を触ってから頭を刺激されます。これが首診、腹診で、首やお腹を触診されることで内臓、脳、および体の各部位の異常を見つけられます。それから、頭ときには顔面に刺激を加えられ首やお腹の異常がなくなったかどうかを確かめられます。このようにして患者さんの訴えを聞かれながら順に診療が進められていくのです。

*** 2月の院内研修と委員会は次のとおりでした ***

- | | | |
|-----------------|-------------------|-----------------|
| ○感染対策委員会 6日(月) | ○身体拘束廃止委員会 16日(木) | ○安全対策委員会 27日(月) |
| ○褥瘡対策委員会 28日(火) | | |